審査員特別賞

和装のススメ

弘前市立南中学校　３年　成田　芽生

皆さんは、アフリカの古着問題を知っているだろうか。

私はＴＶのニュースでこの問題を知り愕然とした。なぜなら、私の家族は着なくなった服をしばしば回収ボックスへ持って行っていたからだ。そして、古着を供出する行為が世界中の困っている人たちの役に立っていると、何の疑いもなく信じていたからである。確かに近頃、「リサイクル」や「リユース」等、聞こえのいい言葉で古着の寄付を呼びかける広告を目にする機会が多くなった。ところが、その実態が、衣類の大量生産、大量消費で生じる廃棄物をSDGsにかこつけてアフリカ等の低所得国へ押しつけているのだとしたら何ともやるせない。ＴＶは、アフリカには世界各地からおびただしい数の古着が集まっていると伝えていた。例えば、西アフリカのガーナには毎週1500万着という想像できないほどの大量の古着が輸入されるそうだ。しかし、利用されるのはせいぜい半分ほどだと言う。残りの衣類はゴミになってしまうわけだ。古着の山であふれるゴミ埋め立て処分場の写真が紹介されていて心が痛んだ。処理能力をはるかに超える古着の廃棄物が、深刻な環境破壊につながっているとのこと。更に、古着はアフリカの経済にも大きな打撃を与えている。人々が着ている衣類の約９割が安価な古着なので、地元の繊維産業が衰退しているのだ。私は以前からアフリカの伝統的な柄の衣装やカラフルな配色に憧れていたのでとても悲しい気持ちになった。

そんな折、私は隣町の花火大会へ出かけるため久しぶりに浴衣へ袖を通した。その後も猛暑が続いたので、私は部屋着として２日ほどお気に入りの浴衣を着て過ごした。「ああ、やっぱり夏は浴衣にかぎる」私は、その数日ですっかり和装の虜になってしまった。考えてみれば、和服は季節毎に着分ける事で四季を楽しむことができるし、丈夫で長く着られる特性がある。祖母から母、子と３世代にわたり受け継がれてきた着物の話を誰もが耳にしたことがあるだろう。着物の生地は痛みづらく、染め直しや縫い直しができるのだ。また、体型が変わっても着付け方で対応が可能で、絵柄の流行廃りがあまり無いため、年齢や時代を問わずに着用できる。更には、素材として利用される絹や綿は天然由来であり、たとえ廃棄されても自然に土に還っていくことになる。

今こそ私たちは、ファストファッションから脱却する時ではないか。短いサイクルで生産、販売される流行のファッションに興味が無いと言えば嘘になるが、もっと日本の伝統的な衣服に注目するべきだと思う。もしかしたら、世界中の人々が袂を連ねてそれぞれの伝統的な民族衣装に回帰することがSDGs推進の切り札になるのではないか。「高校では服飾デザインの勉強に力を注ぎ和服の特長を最大限に活かした新たなファッションの開発に邁進するぞ」私は自分の夢に頷いた。